

公益社団法人 日本雪氷学会北海道支部 2024 年度第 3 回理事会 議事録

1. 日 時

2024 年 12 月 3 日（木）15 時 30 分～17 時 30 分

2. 場 所

オンライン（zoom）

3. 出席者

出席者：松澤、白川、高橋、大宮、小松、永田、杉田、八久保、箕輪、原田（康）、桑原、原田（裕）、渡邊、大鐘（14 名）

委任状：齋藤、澤田、西田（3 名）（敬称略）

※進行：高橋副支部長 記録：大宮

4. 議 事

(1) 2024 年度第 2 回理事会の議事録の確認（報告）

大宮理事より第 2 回理事会の議事録の説明が行われた。

(2) 研究発表担当理事の兼任について（報告）

大宮理事より、白川副支部長が 2024 年度研究発表担当理事を兼任することが報告された。

(3) 次期支部長候補の推薦について（審議）

始めに、理事に対して次期支部長候補の推薦を募ったが、候補者が出されなかった。次に、松澤支部長より次期支部長候補案が出され、審議の結果、北海道支部推薦の候補者が決定した。

(4) 理事体制の見直しについて（審議）

松澤支部長より次年度の理事体制の見直しについて説明が行われ、審議によって下記の体制に変更することが承認された。また、体制変更に伴う役割分担の変更についても承認された。

- ・機関誌「北海道の雪氷」担当(2 人)と研究発表会担当(2 人)を 1 つにまとめて 3 人体制とする
- ・副支部長を 2 名から 1 名に減らす（暫定的）
- ・広報担当を 2 名から 1 名に減らす

(5) 来年度の理事の後任について（報告・審議）

大宮理事より、来年度交代となる理事について説明が行われた。後任者の選定については、基本的には任期を終える担当理事に任されるが、本理事会において複数の候補案が出された。後任者の選定については引き続き協議を続けることになった。

(6)業務の合理化、外注可能性について（審議・報告）

各担当より、業務の合理化案および外注化の可能性について提案がなされた。審議の結果、機関誌「北海道の雪氷」の編集作業に係わる合理化（フォーマットの改訂、別刷りの廃止、担当者は原稿修正を行わない旨、提出べ切の厳格化など）について承認された。また、庶務作業の一部を外注化する方針で進めることが承認された。今後、本部への予算要求に必要な諸情報を整理する（外注内容の明確化、費用の見積もり等）。また、雪氷災害調査チームの会計作業の一部について、今年度から本部事務局の協力を得られることになった旨の報告があった。広報担当より、現在マニュアルを作成中であり、外注の必要性がないことが報告された。雪氷教育担当より、マニュアルを作成することで人数を削減できる可能性（2人→1人）があることが報告されたが、サイエンスパーク当日のスタッフ確保への協力依頼が呼びかけられた。

(7)機関誌「北海道の雪氷」の発刊準備状況の報告と受賞者候補について（報告・審議）

八久保理事より、機関誌「北海道の雪氷 43号」は、すでに支部 HP 上で公開済みであることが報告された。冊子体については現在準備中であり、12 月中には関係機関に発送予定である旨が報告された。また、北海道雪氷賞について、選考委員会が決定した「北の風花賞」、「北の六華賞」の受賞候補者について、本理事会で承認が得られた。「北の蛍雪賞」については、オンライン上での投票機能によって対象者を決定した。

(8)北海道雪氷賞のあり方（審議）

八久保理事より、「北の風花賞」と「北の六華賞」のあり方について問題提起がなされ、意見出しがなされた（継続審議）

- ・風花賞の対象者が曖昧である。学生であることか、若手であること（年齢）のどちらを優先するのか。
- ・査読なしの論文に対してどれほどの意味を持たせるのか？

(9)雪氷災害調査チームの活動について（報告）

原田（裕）理事より、雪氷災害調査チームの今年度のこれまでの活動実績と今後の予定が報告された。

(10)サイエンスパークの開催報告（報告）

大鐘理事より、サイエンスパークの開催報告がなされた。参加者は 19 名であった。

(11)地域講演会の実施について（報告）

桑原理事より、地域講演会の実施報告がなされた。参加者（現地、オンライン）は 24 名であった。

(12)2026 年度雪氷研究大会の開催地について

北見市で開催することが決まったことが報告された

(13)次回理事会の開催時期

次回理事会は 2025 年 3 月上旬を予定する

以上